



麦の生産には、土づくり、排水対策が必須です！



基本技術をしっかり行い、収量・品質を向上させましょう。



気象庁の長期予報に基づき、適期内播種に努めましょう。

1 適期播種

県北の播種適期 11月1日～15日

- ◇ 年内に葉齢3葉程度（播種後の積算気温約300℃）を確保できる時期に播種する。
- ◇ 気象庁の長期予報によると関東地方は平年よりも気温が高く推移する見込みなので適期内で播種を遅らせましょう（10/31以降、気温が高い・平年並の確率がそれぞれ40%・40%）。



早播きの弊害

- ① 春先に凍霜害を受けやすくなる
- ② 縞萎縮病に感染しやすくなる
- ③ 被害粒が発生しやすくなる
- ④ 過繁茂となって有効茎歩合が極端に低下する上、一穂粒数も少なくなる。肥料切れにより、整粒歩合が低く、容積重が軽くなる



収量・品質低下に繋がるため、適期内播種を心がけましょう

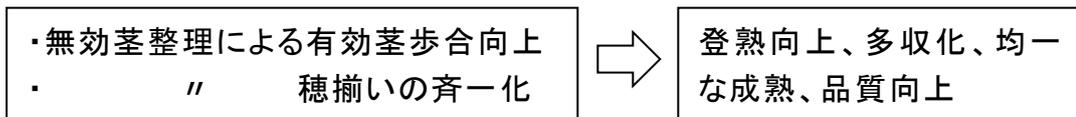
2 土づくり

- ◇ 酸度矯正：pH6.5以上を目標に、アルカリ資材を施用する。
- ◇ 苦土補給：黒ボク土水田、畑地は苦土欠になりやすいので多めに施用する。
- ◇ リン酸補給：安定した収量を得るためにはリン酸の供給がポイントとなる。麦では即効性リン酸と緩効性リン酸を混用した方が増収効果は高い。

3 踏圧

麦の生育を調整する重要な技術であり、その効果は次のとおり。

- ① 地上部の過剰生育を抑制しながら、
 - ・分げつを旺盛にする
 - ・根張りを深くする
 - ・茎葉汁液濃度を高め、耐寒性を増大させる
- ② 霜柱や凍結層による凍上害を防止する。
- ③ 年明け～莖立期直前（3月上旬）の実施は、暖冬年での莖立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避する効果が期待できる。
特に、莖立期直前の麦踏みは以下の効果があるので、必ず実施する。



- ④ 年内最低1回、年明け～莖立期直前に必ず2回実施する。乾燥や寒さが厳しい年や二条大麦では回数を増やす。

4 排水対策

麦は生育全般を通じて湿害を受けやすいため、以下の対策を行いましょう。

◇ 湿害回避に効果的な営農排水対策

- ① ほ場周囲の排水溝設置
- ② 排水溝の掘り下げ、排水路への接続
- ③ 排水溝や排水口の点検
- ④ 心土破碎・天地返し(例:プラソイラ)
- ⑤ 弾丸暗渠・心土破碎(例:振動式サブソイラ)

